

## 4 学校関係者評価委員及び教職員アンケートからの考察

### (2) 考 察（学校関係者・教職員アンケート）

※ 平均は、A：よくあてはまる4点、B：あてはまる3点、C：あまり2点、Dあてはまらない1点として、それぞれの回答数を積算して出した平均点。 ◎：好結果、○：これから期待、▲：課題

※ 比較考察：平成20年度の数値 → 平成21年度の数値 例（3.69 → 3.82）で表した。

平成20年度と平成21年度は同一の対象者ではない。 ◎3：番号3は、アンケート番号

アンケート結果は、あくまで一つの評価資料ということを前提とする。

#### (ア) 学校関係者アンケート結果（回答数：58 → 55）

##### ① 学校理解：学校のことの方が分かるようになってきた。

◎1（平均3.69 → 3.64）10項目中1番高い。学校理解が進んできた。

##### ② 情報受信のメディア：学校便りの情報が殆ど、HPはなかなか見ない。

◎3 学校便り（3.55 → 3.40）による情報受信が殆どである。

○4 直接説明（2.57 → 2.51）は行事や時間の関係で十分な機会が持てない。

▲2 HP（1.98 → 2.02）は機器や接続の普及や利用率が低いと思われる。

##### ③ 学校関係者評価：必要性は分かったが、評価項目が分かりにくい。

◎56 理解度（3.52 → 3.56）、必要性（3.55 → 3.45）評価の理解が進んだ。

○7 客観的な評価（3.26 → 3.35）は、以前より若干進んだと思われる。

○8 評価項目（3.00 → 3.15）で、評価項目について、分かりにくい、評価しにくいといった意見が多かったが、各学校で、評価目的の説明、評価項目の検討、項目の精選が行われた結果、少しずつ改善されたと思われる。

##### ④ 学校改善：学校関係者の方々の学校理解が進んだことが推察される。

○ 保護者（3.28 → 3.33）、学校関係者評価（2.84 → 3.33）という結果。

#### (イ) 教職員【校長、教頭、教務】アンケート結果（回答数：31 → 32）

##### ① 学校評価への学校の参画体制：当事者意識が飛躍的に進んだ。

○1 教職員の理解（2.94 → 3.38）、2 当事者意識（2.77 → 3.28）は、2年目に入り、各学校でも教職員の学校評価についての理解と意識改革が進んだ。

◎3 参画体制を高める手立て（3.42 → 3.47）では、事例発表や意見交換等をとおして、各学校への普及が進み、色々な工夫が実施された。

◎4 校務分掌の担当（3.55 → 3.59）について、目標から実践、評価まで責任を持つ体制が全学校でほぼ構築された。

○5 学校教育目標、学級・教科経営案等との連動（3.16 → 3.16）はこれから。

##### ② 学校関係者評価：学校理解と評価項目の改善は進んだ。今後は客観的な評価についての研究が必要である。

○6 説明、情報発信の工夫（3.35 → 3.47）、7 学校理解の深まり（3.29 → 3.41）については、各学校の工夫や努力が実を結んだ。

▲8 新しい視点、客観的な評価の獲得（3.13 → 3.11）、9 適切な評価項目（2.77 → 3.28）については、学校関係者評価の目的である客観的な評価を研究し、具体的な取り組みを提案したい。

##### ③ 学校改善：学校評価が学校改善のためにあることが実感されてきた。

◎10 学校関係者評価（2.87 → 3.16）や11PDCAサイクル（3.06 → 3.28）を受けての学校改善が、教職員にも学校評価の必要性が認識されてきた。

○12 改善の協議、時間確保（2.74 → 3.00）については、若干向上した。学校改善のための時間の確保も必要だが、形成的に日常から改善を行う意識が肝要である。

④ 公表：直接説明、情報発信の工夫等によって、説明責任が少しずつ向上した。

◎13 直接説明（2.48 → 3.16）、14 情報発信の工夫（3.03 → 3.34）などがなされて、公表の成果が出ている。特にメール配信の普及が目覚しかった。

○15 ホームページ（2.39 → 2.91）では、魅力あるHPづくりが進んだことも推察される。教育委員会のHPもリニューアルを行った。

◎16 学校便り（3.29 → 3.22）では、魅力ある紙面づくりが求められる。

(ウ) 比較集計（学校関係者、及び教職員アンケート結果）

※ 種別：学校関係者：関係、教職員：教職、差のマイナスは、教職員の期待以下  
 ※ 各表の数値：上段は平成20年度、下段は平成21年度

① 情報発信と公表（説明責任）

A) ホームページ：教職員が頑張っている割には、HPは見られていない。

種	NO	項目	A	B	C	D	無	平均
関係	2	学校評価の結果や改善策は、ホームページでも見ている。	6	14	11	17	10	1.98
			8	8	16	22	1	2.02
教職	15	学校評価結果の公表は、ホームページで保護者まで伝わっているか。	1	13	14	2	1	2.39
			6	19	5	0	2	2.91

差： - 0.41 → - 0.89

▲ 機器やインターネット接続関係もあって、HPはあまり見られていない。魅力ある、見たくなるHPを作成・PRして、説明責任を果たしたい。

B) 学校便り：教職員が思う以上に、学校便りで情報が受け取られている。

種	NO	項目	A	B	C	D	無	平均
関係	3	学校評価の結果や改善策は、学校便り（地区回覧含む）でも読んでいる。	37	17	3	1	0	3.55
			28	22	4	0	1	3.40
教職	16	学校評価結果の公表は、学校便りで保護者まで伝わっているか。	12	17	1	1	0	3.29
			11	19	0	0	2	3.22

差： + 0.26 → + 0.18

◎ 学校関係者が学校評価について情報を得る手段は、教職員が思う以上に、学校便りに依存している。学校便りも読みたくなる工夫が必要である。

C) 直接説明：学校が思うほど、学校関係者には説明が印象に残っていない。

種	NO	項目	A	B	C	D	無	平均
関係	4	学校評価の結果や改善策は、PAT総会、PTA役員会等でも聞いている。	15	16	12	9	5	2.57
			11	17	16	7	4	2.51
教職	13	学校評価について、3役から保護者へ直接話して説明を行ったか。（PTA総会、教育の日等の機会に）	4	10	14	2	1	2.48
			12	14	5	0	1	3.16

差： + 0.09 → - 0.65

○ 直接説明では、短くても時間を確保して、直接訴えることが必要である。

## ② 学校関係者評価

### A) 学校評価の理解：教職員が思う以上に、学校関係者は理解の満足度が高い。

種	NO	項 目	A	B	C	D	無	平均
関 係	5	学校評価の進め方や内容が、以前より分かるようになった。	35	19	3	0	1	3.52
			34	18	3	0	0	3.56
教 職	7	学校関係者への学校説明、情報発信によって、学校理解が深められたか。	12	16	3	0	0	3.29
			15	15	2	0	0	3.41

差： + 0.23 → + 0.15

- ◎ 学校の学校評価の説明、情報発信が工夫された成果であると考えられる。

### B) 客観的な評価：客観性についての定義、具体性の研究が必要である。

種	NO	項 目	A	B	C	D	無	平均
関 係	7	評価委員として、以前より客観的な学校評価ができたと思う。	20	33	5	0	0	3.26
			25	26	2	1	1	3.35
教 職	8	学校関係者評価によって、新しい視点及び客観的な評価が得られたか。	11	14	5	0	1	3.13
			9	21	2	0	0	3.22

差： + 0.13 → + 0.13

- ▲ 学校関係者によるより客観的な評価について、平成21年度は「ずれ」を要素と捉えた。今後も客観的な評価のための具体的な方策等が求められる。

### C) 評価項目：項目の改善が進んだ。さらに適切な項目の検討が必要である。

種	NO	項 目	A	B	C	D	無	平均
関 係	8	学校関係者評価の評価項目は、分かりやすいと思う。	22	19	15	2	1	3.00
			17	30	7	1	0	3.15
教 職	9	学校関係者評価の評価項目は、適切であったか。	0	25	5	0	1	2.77
			9	23	0	0	0	3.28

差： + 0.23 → - 0.13

- ▲ 学校関係者の回答数では、「C」15票→7票、「D」2票→1票ある。項目の改善が進んだことが伺われる。さらに文章表現等の検討が必要である。
- 教職員の回答では、「A」が0票→9票である。(2.77→3.28)このことから教職員自身も、評価項目の改善が進んだと認識している。

## ③ 学校改善

### A) 学校評価、学校関係者評価が、学校改善に必要であると理解されてきた。

種	NO	項 目	A	B	C	D	無	平均
関 係	10	学校は、学校関係者評価結果を受けて、改善されてきたと思う。	23	18	2	0	15	2.84
			21	31	1	0	1	3.33
教 職	10	学校は、学校関係者評価結果を受けて、今までより改善されてきたか。	3	23	3	0	2	2.87
			9	20	2	0	1	3.16

差： - 0.03 → + 0.17

- 学校改善に機能する学校関係者評価の研究をさらに進めていきたい。結果を迅速に、具体的に、要すれば個別に説明、改善することが肝要である。

## (エ) アンケート結果を含めた全体考察、及び総括

### ① 評価の「ずれ」からの考察

項目	要素	学校関係者評価 A		教職員(3役)評価 B		差 A-B
情報発信と 公表 (説明責任)	ホームページ	×	2.02	△	2.91	-0.89
	直接説明	△	2.51	○	3.16	-0.65
	学校便り	○	3.40	○	3.22	+0.18
学校関係者 評価	学校理解	◎	3.56	○	3.41	+0.15
	客観性	○	3.35	○	3.22	+0.13
	評価項目	○	3.15	○	3.28	-0.13
学校改善	学校改善	○	3.33	○	3.16	+0.17

※ ◎3.50 以上 ○3.00 以上 △2.50 以上 ×2.50 未満、数値：アンケートの平均値

#### A) 教職員の期待はずれ

- ▲ ホームページ、及び直接説明については、教職員側では、情報が伝わっていると思っているほど、学校関係者には伝わっていない。魅力あるホームページの作成や日頃から、直接情報発信していくことが必要である。
- 評価項目については、精選等の改善が進んだが、学校評価の周知、啓発を通して、評価項目の改善を進めることが必要である。

#### B) 教職員の期待以上の結果

- ◎ 学校便り、メール配信等の情報発信の工夫によって、学校理解が進んだことが推察される。学校への信頼の鍵は、情報発信にある。
- ◎ 学校改善については、具体的な改善策を公表したことで評価が高まった。情報発信が、信頼を育て、学校への支援、協力へつながるものとする。

### ② 検討課題：「客観性」と「納得性」

#### A) 「客観性」

- ▲ 客観性については、学校自己評価と学校関係者評価の「ずれ」の視点からとらえた。また、全く新しい着眼点から、また幅広い視野、高い専門性からの問題提起など、第3者的な評価が、より客観性が高いとも考える。

#### B) 「納得性」

- ▲ 学校自己評価に納得できるかという観点からの学校関係者評価では、情報量や評価者の力量が問われる。かつ、結果を如何に分析するかも鍵を握る。

### ③ 総括

文部科学省委託の2年間を終えて、本市のポイントの2点について総括する。

#### A) 「学校関係者評価」

- ◎ 学校関係者評価について、先ず第1に学校の応援団になっていただくために、様々な工夫を行った。学校理解から学校への信頼が生まれ、学校への支援、協力を繋がり、地域から子どもたちを育てていただくという兆しが見えてきた。学校評価に限らず、教育活動全体を通じた連携が肝要である。

#### B) 「情報提供」

- ◎ 情報提供によって、学校理解が進んだ。次は逆に情報を学校がいただく立場に変わっていくことが実感された。学校への信頼が学校の教育活動の推進にとって、最も必要なことである。情報提供も、学校関係者評価も、学校理解の点で根っこは同じである。